

みなさん、2025年はどんな年でしたか。いいこともあれば、そうではないこともありますたかもしません。1年始まりといえば初詣ですが、初詣以外でも神社や寺院で祈願や参拝をすることもあるでしょう。参拝の証でもある御朱印の正しい授受の仕方や県内で受けることができる御朱印などについて紹介します。



特集



日頃から気軽に参拝を！

佐嘉神社で受けることができる御朱印は、佐嘉神社と松原神社の2種類で「御朱印自体は一般的なものになります」と眞崎さん。普段は社務所で書いてもらうのですが、今回は特にその様子を目にすることができました。書き慣れていることもあると思いますが、短時間で、力強くきれいになりました。

正しい授受の方法は、まずお賽銭を投じてお参りをした後に社務所で御朱印帳を提出しましょう。その時は、御朱印をお願いしたいページを開いて渡すとよりよいです。参拝方法はご存じの方がほとんどだと思いますが、神社では基本的に「二礼、二拍手、一札」です。手を叩いての参拝方法は魏志倭人伝にも出てくるとのことで、日本人の古い敬礼の作法がいまでも残っています。参拝方法はご存じの方がほとんどだと感じます。

近頃、新型コロナウイルスの流行など混沌とした時期が続き、「神様や仏様のご加護を願う人が多くなったんだと思います。熱心にお参りをしてくれる人も増えていました」と眞崎さん。神社や寺院などを含めてスピリチュアルな場所に訪れる機会が増えたと感じています。全国各地の神社や寺院を巡って御朱印を記帳していく人々も少なくありません。1日に複数の御朱印を授受することは大丈夫ですが、あくまでも「御朱印は信仰や参拝の証。スタンプラリーとは違います」（眞崎さん）と強調します。



佐嘉神社



松原神社

寺社を巡って 御朱印を受けよう！

ぐるりさがまちログ

特別編



御朱印について説明してくれた眞崎実央さん

御朱印は「信仰や参拝の証」

そもそも御朱印とは…。そんな疑問を抱き、佐嘉神社（佐賀市）の禰宜・眞崎実央さんに話を伺いました。御朱印の歴史を調べてみると、鎌倉・室町時代に全国を巡っていた修行者が写経を寺社に奉納した際に受け取った「納経受取状」が始まりと記されていました。「もともとはお寺のものですね。お遍路さんなど巡礼の方がお経を写したもの納める。その証明として印をもらうことが起源だと言われています」と眞崎さん。いま現在は参拝の証として神社や寺院などで分けられています。元来、寺院と神社は近しい関係があったといいます。

眞崎さんは「神社の中にお寺があつたり、お寺の中に神社があつたり。明治時代以降は神社と寺院が分離されたので、神社としての御朱印はその頃からだつたと考えられます」と教えてくれました。

「神様や仏様のお名前が記されたもので尊いもの」。眞崎さんは、御朱印の持つ意味をこのように口にします。多くの神社や寺院を参拝すると御朱印帳も増えていき、どのように保管すればいいのか…と頭を抱えてしまうかもしれません。眞崎さんは「粗末な扱いをしてしまうことは困ります。神棚に上げるなど大切に保管をしてもらえば」と促しています。



武雄神社 (武雄市)

武雄市武雄町大字武雄 5327

735年に創建されたとされる武雄神社は武内宿禰など五柱を総称した「武雄大明神」を祀っている。御朱印帳には流鏑馬の勇壮な姿や縁結びの御神木「夫婦檜」が描かれています。御朱印は、切り絵や直書きなどレベルトリーが豊富です。福岡県を拠点とする現代書道アーティストの剣龍(Kento)さんがデザインした龍の絵や毎年10月に神事が行われる流鏑馬が描かれたもの、五円札の肖像に採用された武内宿禰の印が入ったものなど多くの種類から選ぶことができます。中には金箔が施されているものもありました。参拝後に悩んだ末に「武雄神社といえばやっぱりこれ」と、推定樹齢3000年の大楠の御朱印に決めました。モチーフ付きのレース御守りは写真映えしそうな可愛らしさが目を引きます。

福母八幡宮 (大町町)

杵島郡大町町福母 2227



祐徳稻荷神社 (鹿島市)

鹿島市古枝



866年に創建され、福の母と呼ばれる神功皇后が主祭祀の福母八幡宮。御朱印帳は3種類で、月替わりの直書き御朱印は四季折々の季節を感じることができ、12月は1ページに「ボインセチア」、見開きに「菊と雪」がデザインされています。御朱印は毎月変わるもの替わり御朱印を2種類頒布されているとのことです。正月から出される切り絵(なくなり次第終了)は、干支の午と神功皇后が赤ちゃんと抱きかかえて、魔除けの矢を担いでいる姿があしらわれています。神功皇后には黄色のラインストーンがついています。御朱印のほかに、願い事を書いた紙を御守り袋の中に入れることができる「いろは守り」がおすすめとのことです。境内の樹齢約500年の大楠の周りを健康成就を祈りながら回って参拝を終えました。



伊勢神社 (佐賀市)

佐賀市伊勢町 9-8

長崎街道に面した佐賀市伊勢町の静かな一角に鎮座している伊勢神社。戦国時代に現在の吉野ヶ里町で暮らした男性が40回以上にわたって、伊勢神宮(三重県伊勢市)に参詣したとされ、その信仰心のあつさが認められ、伊勢神宮から分霊を受けたとされています。伊勢神宮からこれだけ破格の恩恵を受けています。シングルなデザインの中に「九州のお伊勢さん」の印が入っています。毎年2月に「伊勢大祭」が開かれています。福餅投げや福引きなどが行われ、多くの参拝客でにぎわいを見せます。佐賀で「伊勢の空気」を感じてみてはいかがですか。



新北神社 (佐賀市)

佐賀市諸富町為重三重 1080

新北神社の御神門をくぐった先にある樹齢1600年の楠。さらに進むと社殿右手の御神木「びやくしん」が天に向かって伸びる姿はどうやら庄巻です。境内にそびえる「びやくしん」は樹齢2200年といわれ、不老長寿の仙薬を求めてきた徐福さんが手植えしたと伝えられています。天に突き上げる姿が、縁起のよい飛龍に見えることから「日本三大飛龍木」として願いをかなえてくれるとされています。御朱印は書き置きで対応していて、今はびやくしんが中央に描かれたものを受けることにしました。1月には「奉拝」の部分が、金色の文字で「新春」になるそうです。このほかにも、600年の歴史を誇り、国内では珍しく正月と秋祭りに奉納される「三重の獅子舞」がデザインされた御朱印や、左手の神社で祀られている宮地嶽神社、恵比寿社、稻荷大明神の御朱印も受けられます。1、2月は御神門に巨大えびす様が掲げられるとのことで、その下をくぐって福を授かってはいかがですか。



宝当神社 (唐津市)

唐津市高島 523



唐津城を眺めながら定期船に乗り込んで10分ほどの高島にあります。宝当神社。ある島民が名前の縁起が良いと宝くじを購入して祈願したところ高額当選したことが広まったといいます。信州の国から船でたどり着き、海賊を追い払って島を守った英雄、野崎隱岐守綱吉が祀られています。直書き御朱印は力強く、「寶當神社」と書かれている1種類。切り絵は和歌山県出身で唐津市に移住した切り絵師の谷上ひかるさんがデザイン。綱吉と金運に良いとされている白虎、3年前に他界した夫が好きだった龍などにちなんで作成されています。字が上手だった夫の字体を残したいという思いで、切り絵や書き置きの御朱印で使われています。また、年末ジャンボ宝くじの販売期間限定の書き置きの御朱印も人気があるということです。宝くじに加え、企業の入札やコンサートチケットの当選祈願なども増えているそうです。嵐として活動していた大野智さんも足を運んだ神社で、絵を残したいという思いで、切り絵を残してみては。

唐津神社

(唐津市)

唐津市南城内3番13号



毎年11月2~4日に開催され、ユネスコの無形文化遺産に登録されている秋季例大祭「唐津くんち」で有名な唐津神社。唐津市中心部に位置し、真っ白な鳥居がそびえ立っているのが印象的です。手書きの御朱印は基本的に1種類で、鳥居や曳山の印が押されています。唐津くんちの期間限定で書き置きの御朱印が頒布されているとのことで、来年こそは時間を作って雰囲気を味わってみたいな、と思いながら本殿前で手を合わせました。

仁比山神社

(神埼市)

神埼市神埼町的1692



春の新緑と秋の紅葉が期間限定で一般公開される国の名勝「九年庵」から少し歩みを進めると物静かな空間に鎮座していました。農や酒、医薬の神として崇められている仁比山神社。12月に入っていますが、まだ紅葉を楽しむことができる場所もあって、晚秋の空気をゆっくりと感じることができました。直書きの御朱印には宮司がもみじの葉から形を取った手作りのスタンプを押してくれました。今度は、新緑を味わえる時期に足を運ぼう。



今回の特集を企画するに当たって、実際に参拝をして御朱印を受けてきました。神社や寺院は「何かしらがなければ行く機会がない」「普段から行つてもいいのだろうか」という場所だという固定観念がありました。が、話を伺う中で、願いごとを祈るだけではなく、心を落ち着かせるために足を運んでもいいの類のお守りも並んでいて、「またこの場所を訪ねたいな」という気持ちも強くなりました。普段は見かけないようなさまざまな種類の御朱印を集めています。普段は見かけないような種類のお守りも並んでいて、「またこの場所を訪ねたいな」といって、その証「御朱印」を集めていこうかな…。

蠣久天満宮

(佐賀市)

佐賀市鍋島町蛎久1448



太宰府天満宮から分霊を受け、龍造寺氏や鍋島氏に庇護を受けていたという長い歴史があるとされています。雨上がりに足を運び、書き置きの御朱印を拝受しました。蠣久天満宮は、新たな1年を前に「巳」と「馬」の文字があしらわれている御朱印でした。神社内には龍樹菩薩像を安置している堂も残っていて、笑顔を浮かべた「菩薩さま」ときらびやかな多くの星が描かれた御朱印も受けることができました。

牛嶋天満宮

(佐賀市)

佐賀市東佐賀町15番30号



学問や文化芸術、厄除けの神様として仰がれて太宰府天満宮(福岡県)の御祭神でもある菅原道真の子孫・牛島教正によって1151年に創建されたとされる牛嶋天満宮。住宅街の中にひっそりとたたずんでいますが、境内の楠など緑が豊かで心が休まる趣深さを感じました。あいにく参拝をした日は宮司さんたちがいらっしゃらなかったので、短歌が記されて、その短歌に合わせたデザインの書き置きの御朱印を拝受しました。



総本山 本福寺

(基山町)

三養基郡基山町大字宮浦2120



緑深い山道を登ると、まぶしい朱塗りの本堂が見えてきます。飛鳥時代に日本最古の山城「基肄城」が築かれた跡地に位置する総本山本福寺は、平安時代に空海が修行をしたという歴史が深く由緒ある場所です。善法堂の内部には木造としては日本最大級とされる6メートルの不動明王大仏が祀られ、西日本最大級の五重塔も目を見張ります。御朱印は直書きや切り絵など種類は豊富。香り付き御朱印には縁起物の白蛇の皮も貼られ、もみじや雪の結晶などの貼り絵が施された御朱印もすぐ手が込んでいました。中でも「おふどうさん」として親しまれる不動明王の御朱印は最も迫力がありました。御朱印や祈願を待つている間に休憩することができます。「寺カフェ」が7年前に開かれました。護摩焚きの祈祷は災難を除いて幸福をもたらすとされています。元旦にきれいな初日の出を拝み、初詣で商売繁盛や厄除け、開運招福などを祈願しに足を運んでみてください。



千栗八幡宮

(みやき町)

三養基郡みやき町白壁2403



陶山神社

(有田町)

西松浦郡有田町大樽2-5-1



12月1月は「難を転ずる」という意味合いを込めて、南天が描かれているものも複数の種類が用意されています。朱印は基本的に直書きで、写真に収める観光客の姿だけではなく、境内にある狛犬や欄干、灯籠なども陶磁器で作られていて、山神社。鳥居をくぐった先の階段をさらに進むと、唐草模様の陶磁器の鳥居が姿を現します。鳥居だけではなく、境内にいる陶祖神が祀られている陶山神社が、鳥居の存在感も抜群で、そのままにあつた「打ち出の小槌」で財布を3回、優しく叩きました。何かいいことがありますように!

唐津神社

(唐津市)

唐津市南城内3番13号



毎年11月2~4日に開催され、ユネスコの無形文化遺産に登録されている秋季例大祭「唐津くんち」で有名な唐津神社。唐津市中心部に位置し、真っ白な鳥居がそびえ立っているのが印象的です。手書きの御朱印は基本的に1種類で、鳥居や曳山の印が押されています。唐津くんちの期間限定で書き置きの御朱印が頒布されているとのことで、来年こそは時間を作って雰囲気を味わってみたいな、と思いながら本殿前で手を合わせました。

仁比山神社

(神埼市)

神埼市神埼町的1692



春の新緑と秋の紅葉が期間限定で一般公開される国の名勝「九年庵」から少し歩みを進めると物静かな空間に鎮座していました。農や酒、医薬の神として崇められている仁比山神社。12月に入っていますが、まだ紅葉を楽しむことができる場所もあって、晚秋の空気をゆっくりと感じることができました。直書きの御朱印には宮司がもみじの葉から形を取った手作りのスタンプを押してくれました。今度は、新緑を味わえる時期に足を運ぼう。



今回の特集を企画するに当たって、実際に参拝をして御朱印を受けてきました。神社や寺院は「何かしらがなければ行く機会がない」「普段から行つてもいいのだろうか」という場所だという固定観念がありました。が、話を伺う中で、願いごとを祈るだけではなく、心を落ち着かせるために足を運んでもいいの類のお守りも並んでいて、「またこの場所を訪ねたいな」といって、その証「御朱印」を集めていこうかな…。

蠣久天満宮

(佐賀市)

佐賀市鍋島町蛎久1448



太宰府天満宮から分霊を受け、龍造寺氏や鍋島氏に庇護を受けていたという長い歴史があるとされています。雨上がりに足を運び、書き置きの御朱印を拝受しました。蠣久天満宮は、新たな1年を前に「巳」と「馬」の文字があしらわれている御朱印でした。神社内には龍樹菩薩像を安置している堂も残っていて、笑顔を浮かべた「菩薩さま」ときらびやかな多くの星が描かれた御朱印も受けることができました。

牛嶋天満宮

(佐賀市)

佐賀市東佐賀町15番30号



学問や文化芸術、厄除けの神様として仰がれて太宰府天満宮(福岡県)の御祭神でもある菅原道真の子孫・牛島教正によって1151年に創建されたとされる牛嶋天満宮。住宅街の中にひっそりとたたずんでいますが、境内の楠など緑が豊かで心が休まる趣深さを感じました。あいにく参拝をした日は宮司さんたちがいらっしゃらなかったので、短歌が記されて、その短歌に合わせたデザインの書き置きの御朱印を拝受しました。



総本山 本福寺

(基山町)

三養基郡基山町大字宮浦2120



緑深い山道を登ると、まぶしい朱塗りの本堂が見えてきます。飛鳥時代に空海が修行をしたという歴史が深く由緒ある場所です。善法堂の内部には木造としては日本最大級とされる6メートルの不動明王大仏が祀られ、西日本最大級の五重塔も目を見張ります。御朱印は直書きや切り絵など種類は豊富。香り付き御朱印には縁起物の白蛇の皮も貼られ、もみじや雪の結晶などの貼り絵が施された御朱印もすぐ手が込んでいました。中でも「おふどうさん」として親しまれる不動明王の御朱印は最も迫力がありました。御朱印や祈願を待つている間に休息することができます。「寺カフェ」が7年前に開かれました。護摩焚きの祈禱は災難を除いて幸福をもたらすとされています。元旦にきれいな初日の出を拝み、初詣で商売繁盛や厄除け、開運招福などを祈願しに足を運んでみてください。



千栗八幡宮

(みやき町)

三養基郡みやき町白壁2403



陶山神社

(有田町)

西松浦郡有田町大樽2-5-1



12月1月は「難を転ずる」という意味合いを込めて、南天が描かれているものも複数の種類が用意されています。朱印は基本的に直書きで、写真に収める観光客の姿だけではなく、境内にいる狛犬や欄干、灯籠なども陶磁器で作られていて、山神社。鳥居をくぐった先の階段をさらに進むと、唐草模様の陶磁器の鳥居が姿を現します。鳥居だけではなく、境内にいる陶祖神が祀られている陶山神社が、鳥居の存在感も抜群で、そのままにあつた「打ち出の小槌」で財布を3回、優しく叩きました。何かいいことがありますように!

唐津神社

(唐津市)

唐津市南城内3番13号



毎年11月2~4日に開催され、ユネスコの無形文化遺産に登録されている秋季例大祭「唐津くんち」で有名な唐津神社。唐津市中心部に位置し、真っ白な鳥居がそびえ立っているのが印象的です。手書きの御朱印は基本的に1種類で、鳥居や曳山の印が押されています。唐津くんちの期間限定で書き置きの御朱印が頒布されているとのことで、来年こそは時間を作って雰囲気を味わってみたいな、と思いながら本殿前で手を合わせました。

仁比山神社

(神埼市)

神埼市神埼町的1692



春の新緑と秋の紅葉が期間限定で一般公開される国の名勝「九年庵」から少し歩みを進めると物静かな空間に鎮座していました。農や酒、医薬の神として崇められている仁比山神社。12月に入っていますが、まだ紅葉を楽しむことができる場所もあって、晚秋の空気をゆっくりと感じることができました。直書きの御朱印には宮司がもみじの葉から形を取った手作りのスタンプを押してくれました。今度は、新緑を味わえる時期に足を運ぼう。



今回の特集を企画するに当たって、実際に参拝をして御朱印を受けてきました。神社や寺院は「何かしらがなければ行く機会がない」「普段から行つてもいいのだろうか」という場所だという固定観念がありました。が、話を伺う中で、願いごとを祈るだけではなく、心を落ち着かせるために足を運んでもいいの類のお守りも並んでいて、「またこの場所を訪ねたいな」といって、その証「御朱印」を集めていこうかな…。

蠣久天満宮

(佐賀市)

佐賀市鍋島町蛎久1448



太宰府天満宮から分霊を受け、龍造寺氏や鍋島氏に庇護を受けていたという長い歴史があるとされています。雨上がりに足を運び、書き置きの御朱印を拝受しました。蠣久天満宮は、新たな1年を前に「巳」と「馬」の文字があしらわれている御朱印でした。神社内には龍樹菩薩像を安置している堂も残っていて、笑顔を浮かべた「菩薩さま」ときらびやかな多くの星が描かれた御朱印も受けることができました。

牛嶋天満宮

(佐賀市)

佐賀市東佐賀町15番30号



学問や文化芸術、厄除けの神様として仰がれて太宰府天満宮(福岡県)の御祭神でもある菅原道真の子孫・牛島教正によって1151年に創建されたとされる牛嶋天満宮。住宅街の中にひっそりとたたずんでいますが、境内の楠など緑が豊かで心が休まる趣深さを感じました。あいにく参拝をした日は宮司さんたちがいらっしゃらなかったので、短歌が記されて、その短歌に合わせたデザインの書き置きの御朱印を拝受しました。

